

日本も本格的な超高齢社会を迎え、もはや介護との連携なくして医療は成立しない時代になったと言えよう。そこで今回は、医療と介護の橋渡しをする職種について考えてみたい。

私の研修医時代には、担当入院患者が医学的には退院できる状態になっても、さまざまな事情により自宅へ帰ることがままならない場合、医師自らが知り合いの病院に連絡を取って、転院受け入れの可否を確認することが日常業務の一つであった。もちろん大学の授業でそのノウハウを教えてくれるわけでもないで、四苦八苦しなながら転院先を探したものである。

今は主だった病院では医療ソーシャルワーカー（MSW）が配置されている。MSWは患者が療養中

に生じる困りごとを聞き、地域や家庭、社会において自立した生活が送れるように、社会的、心理的問題解決の調整、手助けを行う職種である。ほとんどのMSWは社会福祉士の国家資格を有しており、

専門知識のもと行政との連携、経済的な救済、在宅介護への橋渡しなど、さまざまな業務を行っている。病院勤務医の認識からするとMSWの役割は病院から外への調整といった一方通行的なものと思われがちであるが、最近は介護保険

を受けている患者が病院に入院した際には、ケアマネジャー、ヘルパーなどの在宅介護従事者が病院に出向き、病院の医師、看護師などに情報を提供して、在宅での介護方法を病院看護に取り入れる際

に医療から介護のみならず、介護から医療への橋渡しにおいてもMSWの果たす役割は大きい。

一方、診療所においてはMSWを置いている医療機関はまだ少なく、外来診療、在宅医療の場においてMSW的な役割を担っているのがケアマネジャー（ケアマネ：介護支援専門員）である。MSWの中心である社会福祉士は国家資格であるが、ケアマネは都道府県単位での認定資格であり、その職種、役回りも千差万別である。最近はケアマネが常駐するコンビニもあり、利用者にとっては相談の窓口のハードルが下がったことは喜ばしいことかもしれない。今後はケアマネにも医療との垣根を低くして、双方向的な橋渡しができることを期待したい。

論壇

医療・介護 双方の橋渡し

茨城県保険医協会 副会長 高橋 秀夫

の橋渡しも行っていると聞く。近年の核家族化、増加する老々介護のもとでは、患者の実際の生活状況を医療機関側が詳細に把握することは極めて困難であり、病院が適切な医療、看護を提供するにあたり大きな障壁になっている。このよ